

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和 8 年 1 月 1 日～令和 8 年 8 月23日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和 7 年数値は 1 月 1 日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 8 年	225	34	2	100	116	252
令 和 7 年	253	33	3	122	128	286
前 年 同 期 比	-28	1	-1	-22	-12	-34

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	33	14.7%	4	0	17	18	39
	後立山	73	32.4%	17	0	27	42	86
	その他	25	11.1%	2	0	15	10	27
計		131	58.2%	23	0	59	70	152
中央アルプス		15	6.7%	0	0	8	8	16
南アルプス		8	3.6%	1	1	4	2	8
八ヶ岳連峰		22	9.8%	5	0	8	11	24
その他の山岳		49	21.8%	5	1	21	25	52
計		225		34	2	100	116	252

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	62	27.6%	15	0	51	0	66
転 倒	43	19.1%	0	0	43	0	43
病 気	19	8.4%	7	0	0	12	19
道 迷 い	25	11.1%	0	0	0	35	35
落 石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪 崩	3	1.3%	2	0	1	0	3
落 雷	1	0.4%	0	0	1	0	1
疲労凍死傷	37	16.4%	3	0	0	38	41
不明・他	35	15.6%	7	2	4	31	44
計	225		34	2	100	116	252

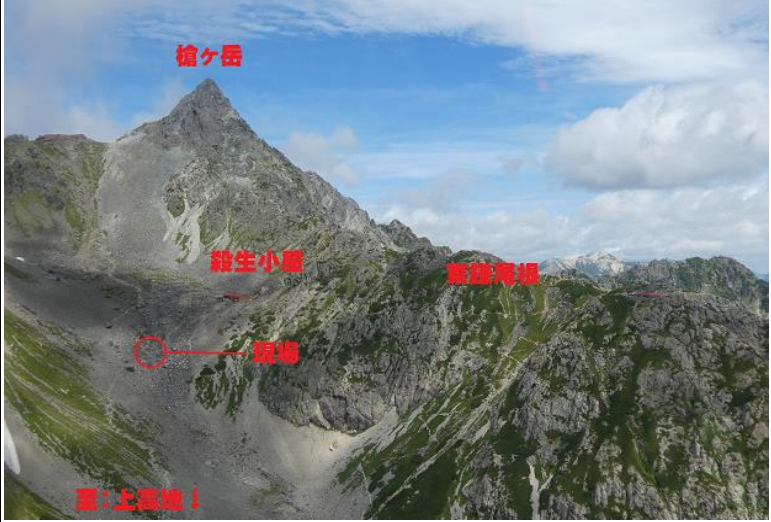
4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
1 9 歳以下	1	0	1	5	7	42 24.3%	0	0	1	3	4	22 27.8%	11	64 25.4%
2 0 代	2	0	5	16	23		0	0	1	5	6		29	
3 0 代	1	0	4	7	12		1	0	3	8	12		24	
4 0 代	4	0	10	10	24	60 34.7%	1	0	2	2	5	24 30.4%	29	84 33.3%
5 0 代	5	0	17	14	36		1	0	13	5	19		55	
6 0 代	11	1	13	19	44	71 41.0%	2	0	10	4	16	33 41.8%	60	104 41.3%
7 0 以上	5	1	11	10	27		0	0	9	8	17		44	
計	29	2	61	81	173		5	0	39	35	79		252	
比 率	68.7%						31.3%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（8/17～8/23）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
8月18日	北アルプス 北穂高岳	男	78	死亡	滑落	4人パーティで北穂高岳から涸沢に向けて下山中、北穂高岳南稜で、スリップし、滑落
						上記遭難現場写真①
						上記遭難現場写真②
8月21日	北アルプス 針ノ木岳	男	61	無事救出	その他	2人パーティで扇沢から針ノ木岳へ向けて登山中、登山道から滑落。怪我はなかったが自力で登山道へ復帰できず、救助要請。
8月22日	北アルプス 南岳	女	60	負傷	滑落	3人パーティで槍ヶ岳から南岳へ向けて縦走中、岩場でスリップし、滑落、負傷。
						上記遭難現場写真③
8月22日	志賀高原 鉢山	男	74	無事救出	発病	18人パーティで横手山から入山し、鉢山山頂付近で、体調不良のため、行動不能

8月23日	北アルプス 槍ヶ岳	女	34	負傷	転倒	4人パーティで槍ヶ岳から上高地へ向けて槍沢を下山中、スリップし、転倒、負傷。
						上記遭難現場写真③
8月23日	御嶽山	女	60	負傷	転倒	20人パーティで山頂から下山中、石につまずき、転倒、負傷
8月23日	中央アルプス 宝剣岳中御所谷	女	59	負傷	滑落	2人パーティでしらび平から入山し、中御所谷を沢登り中、岩場でスリップし、滑落、負傷。
8月23日	中央アルプス 宝剣岳中御所谷	男	46	無事救出	その他	上記遭難者の同行者。同行者が岩場で滑落し負傷したため、単独での下山が困難となり行動不能。

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、8件の山岳遭難が発生しました。

北アルプス北穂高岳では、南稜を下山中に滑落する死亡遭難が発生したほか、県内各地で滑落や転倒、疲労による行動不能遭難が発生しました。

本年、県内で発生している態様別の遭難割合は、「滑落が約3割」、「転倒が約2割」で推移しており、先週も滑落遭難が3件、転倒遭難が2件発生しています。

「転倒」にフォーカスすると、特に下山時に多く発生していますが、原因は濡れた岩でのスリップやバランス崩しなど様々です。登山をする方なら一度は、何かしらの原因での転倒や、何の気なしに出した一歩から、ヒヤッとした経験をお持ちではないでしょうか。

バランスを崩した時、身体反応と体幹でリカバリーできることもありますが、受け身や反応が遅れたり、傾いた足首に全体重がかかれば、骨折等の重傷を負い、行動不能となる可能性が非常に高くなります。また、転がる様に転倒し、頭部や頸椎を負傷するケースもあります。

本人の身体能力、装備（靴の種類やソールの状態、荷物の重量）、天候等にも左右されますが、特に疲労が蓄積された下山時は、最後まで慎重な行動が求められます。下山までを見据え、「自身の体力や技量にあった山選び」で、ゆとりある登山を心がけましょう。